

備えを実感 東北で学ぶ 防災研修会を実施

実施協力 北紋バス株式会社

10月12日(土)～16日(水) 紋別社協ボランティアセンター主催の防災研修会を岩手県宮古市・遠野市、宮城県石巻市などで実施し、13名の市民が参加しました。被害を被った東北地方に実際に出向き、自分たちの目で確認し、被災当時の状況や、その後の生活状況を知り、市民参加を視野に入れた災害ボランティアの組織づくりを目的に実施しました。

13日(日)宮古市田老地区では「日本一」とされる防潮堤を乗り越えてきた大津波で被害を受けた方の防災語り部に参加。その後は、バスで移動しながら、当センターが用意した震災前の町並みの様子を記録したDVDなどをバスの中で視聴しながら、過去と現在の違いを把握し被害の凄まじさを実感。14日(月)は、遠野市で避難している方との交流会。15日(火)は石巻市の現状確認と、震災直後1日300人～600人のボランティアを受け入れた石巻市社協による災害ボランティアの重要性などの講話を体験しました。

被災地では、山を切り開き、高台に街をつくる準備をしており、東北地方では、復興に向けて一丸となり取り組んでいます。今後も、当協議会では、今回の研修で学んだことを活かし、防災の街づくりを行い、引き続き東北への支援にもご理解いただきますようお願いいたします。

参加者の声

- ・自然の前には無力。だからこそ、備えが必要。だから紋別でも伝えていきたい。
- ・胸が詰まる思いがした。未だに野ざらしの状況に言葉がでなかった。
- ・心の傷は深い。被災された方から、水洗トイレの水も流せない孫の話を聞いた時は、頭が真っ白になった。

など



無残な姿になっているホテルを目の前に言葉が失う参加者



宿舎でも被災された方(写真右中央)あによる防災語り部を実施。備えの重要性を実感

被災地ボランティアの経験が生きる

紋別沖における地震と津波による被害を想定した、紋別市総合防災訓練が10月2日(水)、市スポーツセンターで行われました。当協議会は、災害ボランティアセンターの運営、避難所運営、炊き出しなどに携わり、社協からは被災地ボランティアの経験者をはじめ総勢27名のボランティアさんが参加。また、大震災後、派遣職員が見た避難所で活動していた高校生ボランティアの重要性を考え、当協議会から紋別高校野球部にも声をかけ、訓練に参加してくれました。野球部員は救援物資の仕分けなど、テキパキに行動し、本番さながらに臨機応変に活躍していました。この様に、当協議会は、被災地支援で培った経験を紋別の防災に役立て、災害ボランティアのシステムづくりを進めて参ります。



救援物資の仕分けなどに参加するボランティアさん